長野県

―新風土記―

岩波写真文庫　144

長野県全図

凡例	
県界	
郡界	
国鉄	
私鉄	
主要道路	
国立公園	
市街	
火山	
温泉	
名所及び城址	
発電所	

0 10 20 30 40 km

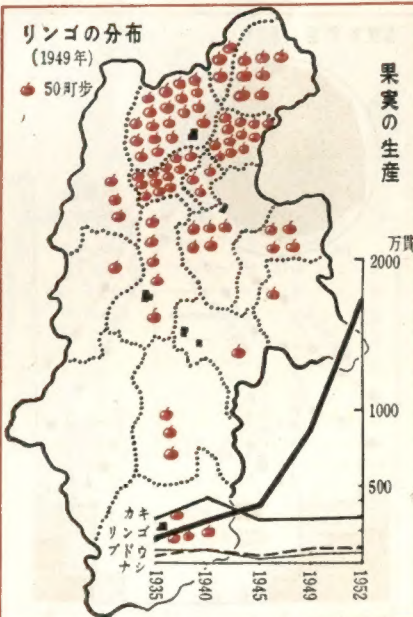
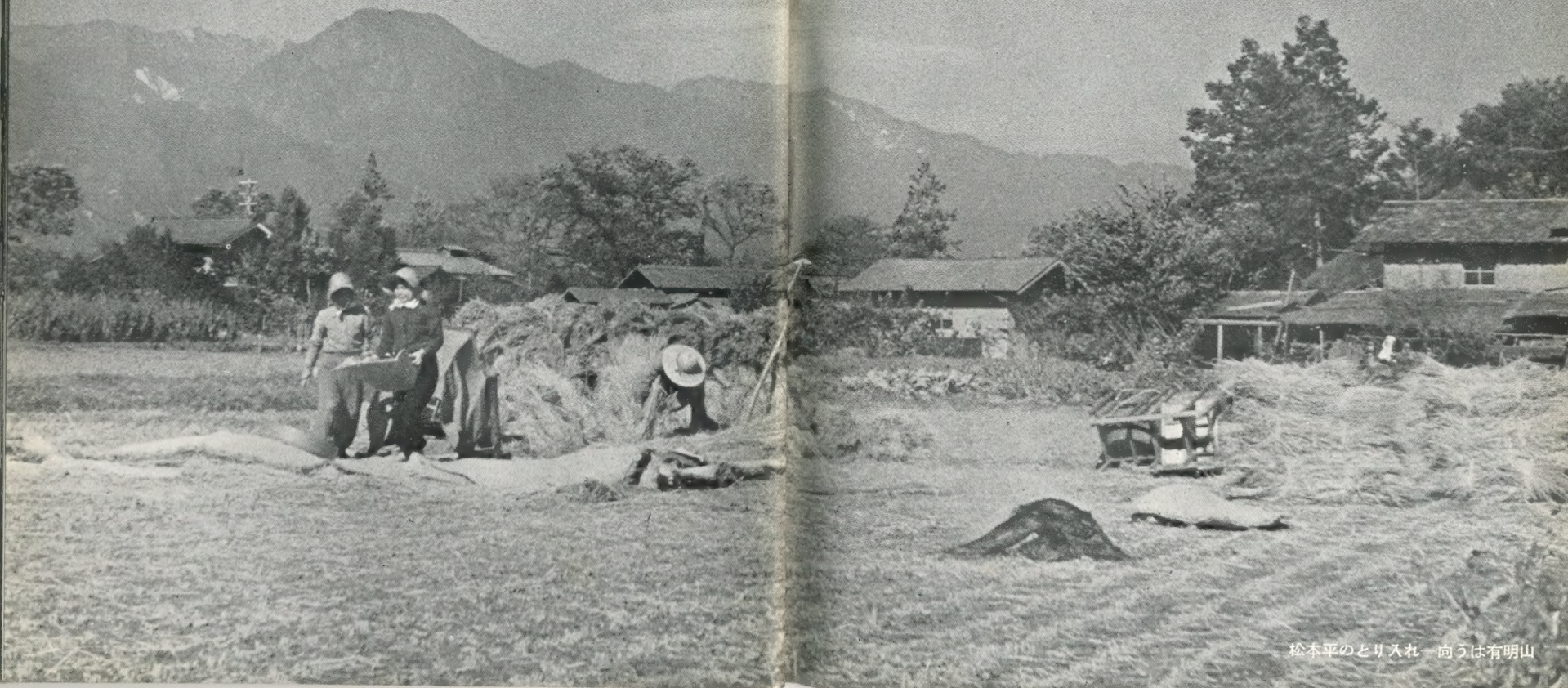
岩波写真文庫 144　長野県　—新風土記—

編集　岩波書店編集部　名取洋之助
写真　岩波映画製作所　長野県

碓氷峠

「信濃の国は十州に、境連る国にして、聳ゆる山はいや高く、流るる川はいや遠し」。信州生れの人が好んで口ずさむ歌だ。また日本の屋根と呼ばれる山岳の国でありながら「松本、伊那、佐久、善光寺、四つの平は肥沃の地」で、交錯する大山脈の間に開けた平野の豊さに加え、自然の厳しさと冬の長いことが信州の産業と文化を特色あるものにした。江戸と関西を結ぶ脇街道の中仙道が長く走り、東から西からもたらす文化の風も、山国にありがちな鎖国性を破るに一役果したことであろう。そういう長野県を描くことに努めた。

目　次

定価100円　1955年3月25日　第1刷発行　1955年9月1日　第2刷発行　発行者　岩波雄二郎　印刷者　米屋勇　印刷所　東京都港区芝浦2ノ1　半七写真印刷工業株式会社　製本所　永井製本所　発行所　東京都千代田区神田一ッ橋2ノ3　株式会社岩波書店

長野県はむかし信濃国と呼ばれた。さらに古くは科国、科野、信乃とも書かれた。「信濃地名考」には、「山国にて階坂あれば地の名となりけむ」とその由来を記している。「千曲之真砂」という本には、「信濃と号するは、当国に科といふ木あり、この木を剝ぎ、諏訪の神事に用ふることあり、よって科野国と名づくる也」とあり、「太平記」によると、その科の木は、むかし諸国に取り求めて大綱とし、天王寺の造営にも用いたらしく、科の字を級とも書いたそうである。ともかく、科の木の生える高原の荒野、万葉集の時代から、「信濃道は今の墾道刈株に足踏ましなむ履はけ我が夫」と詠まれた嶮阻な坂道の多い山国が、信濃国、つまり長野県の、見た目の姿である。日本にある海のない八つの県の一つであり、海岸からの隔りが一番遠い所で百粁余もあり、旧国名でいえば、十州に境している。東は上野、武蔵、甲斐の三国に交わり、西は美濃、飛騨、越中の三国に接し、南は駿河、遠江、三河の三国に連り、北の一帯は越後に会している。美濃国との境では、初雪の降るころになると、美濃側は降るより消えて暫くの間も保たないのに、信濃の側では消えずにつもり、やがて白皚々となる。そこで土地ではその消否の間を信美の境としたそうである。上野、越後、信濃の境は三国嶺となっているが、峠を境として信濃の地には野篶が茂り、上野越後には篶がなく、これによって国境を見極めたそうである。篶は信濃の山に多く見られる。万葉集で水篶刈る信濃と詠んでいるのも、この光景を枕言葉としたものといわれる。また、信濃国安曇郡と越後国頸城郡との境は、白池という池になっている。この池は、北半が青く、南半は白く、青いほうを越後の地とし、白いほうを信濃の地としたそうであり、附近の立木には、七年に一度、下諏訪から、神官がおもむき、鎌を打込んで、境のしるしとするのが昔からのしきたりであった。このように四方を十州に囲まれた山国信濃は、ただ山中におき忘れられた国ではなく、十州の往来の道筋に当ってきた。東日本と西日本との地質などの自然的条件が、この国を境として移り変るように、東西の文化の空気も、この国を通って息づきあった。上方と関東の言葉がこの国で交流しあい、南信と北信に大別される信州人の気質を育んでいった。

松本平のとり入れ　向うは有明山

槍ヶ岳

上高地一帯の中部山岳国立公園，志賀高原と万座を結ぶ上信越高原国立公園をはじめ，五つの県立公園を擁する日本の屋根は，関東，中京，関西と接近して，ここからめじろおしに信濃路を踏む人々は昭和26年の約800万人に対し，27年度は約1005万で2割もふえ，観客の落した金も50億円を突破しているという.

北アルプス

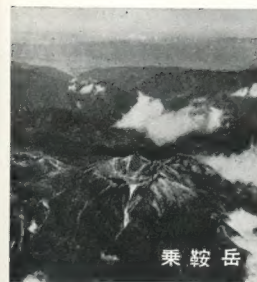
山岳

日本群島のほぼ中央、新潟県糸魚川から初まり、長野県を松本市、諏訪市で縦断して、山梨県韮崎を経て静岡市附近に抜ける大きな断層がある。東日本と西日本と、地質学的に性質を異にした二つの土地のかたまりが、ここでくっついたようになっている。一八九三年、地質学者ナウマンが、初めてこの断層を見つけフォッサマグナと名づけた。その西方の断層崖上には、飛驒山脈、木曾山脈、赤石山脈等、三千米級の山岳が立ち、東方は三国山脈、関東山脈等の褶曲山脈が山波を連ねている。フォッサマグナの中央には、富士火山帯が噴出し、富士・愛鷹火山群、八ヶ岳・蓼科火山群、妙高火山群がほぼ一直線上に隆起する。西側に乗鞍火山帯が走り、御岳、乗鞍、焼岳が噴出し、東側には上信火山帯が走り、浅間山、白根山の活火山と、四阿・志賀高原等の火山地形をつくる。温泉は県下に約五十箇所を数え、富士火山帯と上信火山帯に集まり、南信の乗鞍火

山帯ではまばらである。戸倉、上山田温泉のように、火山ではなく、地殻の割れめ、つまり断層線に沿ってわき出る温泉も多い。日本の屋根といわれるこれらの山岳地帯は、俗に日本アルプスと呼ばれている。北アルプスというのは、飛驒山脈のことであり、中央アルプスは木曾山脈、南アルプスは赤石山脈を指している。日本アルプスの名は、明治初年、イギリスの鉱山技師ガウランドが鉱脈を探して飛驒の山々に登ったときに命名したのがはじめで、その後牧師ウェストンが明治二十四年から信・飛の諸峯を前後四回登攀し、そのときの紀行を「日本アルプスにおける登山と踏査」と題して、明治二十九年にロンドンで出版した。北アルプスは概して起伏に富み、岩頭が鋸歯のように天を突き、八月上旬なお延長二粁に及ぶ雪渓を残す峯が多いが、南アルプスは起伏が少なく、残雪も七月小暑ともなれば、すっかり消えてしまう。二千米にたらぬ上越国境の山より早く消える。北アを男性的とするなら、南アは女性的である。

開田村より御岳を望む

赤石岳と南アルプス

白馬連峰

乗鞍岳

信州の山々

信州と上越との境をはしる上信火山帯．火山の密度は我が国火山帯中の首位．浅間山(2542)は三重式コニーデの活火山．天明の大爆発は600余の人家を倒して鬼押出を溢出させた．その他白根山(2162)，四阿山(2333)，乗鞍火山帯には六根清浄の善男善女に賑わうナンジャラホイの，御岳(3063)がある．乗鞍岳(3026)はコニーデ型休火山．女性的な山容の頂にコロナ，宇宙線観測所がある．南アルプスの主峯赤石岳(3120)は男性的で天竜，大井川の分水嶺．お花畠で美しい斜面をもつ．北アルプスは白馬連峯の主峯白馬岳(2933)は暮春に頂上から北方に雪が消え，馬の形に岩が黒くあらわれる．大雪渓とお花畠とスキーで有名．北ア入りの根拠地は上高地．草青く梓川の水は光り，落日が穂高の頂きに黄金の雲を揺曳させる．穂高，槍は山男たちのメッカ．

沓掛より浅間山を望む

上高地，正面に焼岳

菅平高原

高原

海のない県。三千米級の高山が十五峯もならび、海からの気流をさえぎっている。したがって気候は内陸性、夏は短いが、七、八月の日中は三三度を越し、長い冬の寒気はきびしく、松本では零下二八度八分を記録したことがある。晴れて冷えこむ夜。一年のほぼ三分の一にわたって霜が降りる。信州の農民はこの霜を見ない僅かな夏の間に、人の二倍も働き、しかもしばしば苗代や桑が晩霜でひどくいためつけられる。霜は多いが雨量は概して少ない。季節風が山にさえぎられ空ッ風となる為である。上田、佐久平の雨量は年九百粍内外で、北海道旭川に次ぐ乾燥地帯である。山麓に展開する広闊な高原は、日射は強くとも、湿度は八〇％以下、朝夕も涼しく、快い避暑地となる。しかし南信の伊那谷、木曾谷等は表日本型で夏の雨量が多く、北信の飯山盆地等は裏日本型で冬の雪量が多い。飯山、野沢温泉、小谷温泉などの雪は三米を越え、アスピリンのような粉雪。「長野から一里北に進むごとに、雪は一尺深くなる」という俚諺がある。

志賀高原

熊の湯入口

美ガ原

浅間高原療養所

からまつの高原

千曲山脈2000米の高原地帯は，十州を展望してつつじの群落と粉雪で有名．美ガ原と呼ばれている．四阿山に接する根子岳(2128)の西側，海抜1400米の菅平高原．この雪のスロープを日本ダボスと誰かが呼んだ．志賀高原は東洋のサンモリッツ．白根熔岩や横手熔岩が1300～1700米の台地を作り，渓谷，滝，温泉，森林を配し積雪は 2～3 米．その熊ノ湯温泉は幕末の先覚者佐久間象山が発見した笠岳山麓の鞍部1700米，ツアーの根拠地である．高原といえば，KARUIZAWA．高原療養所があり，天然氷工場がある浅間高原の寒冷地を，明治19年，イギリスの宣教師達が避暑地とした．昔の中仙道の宿場が今では瀟洒な別荘地帯となり，学者の勉強地となった．「からまつの林の奥もわが通る道はありけり．霧雨のかかる道なり．山風のかよふ道なり」(白秋)．

浅間の天然氷工場

軽井沢の別荘

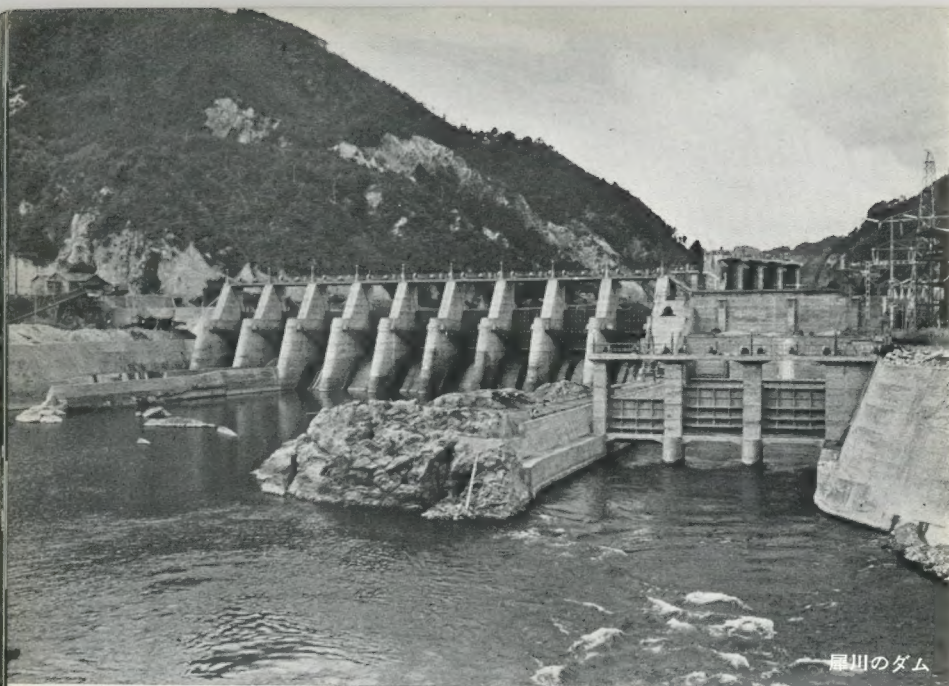
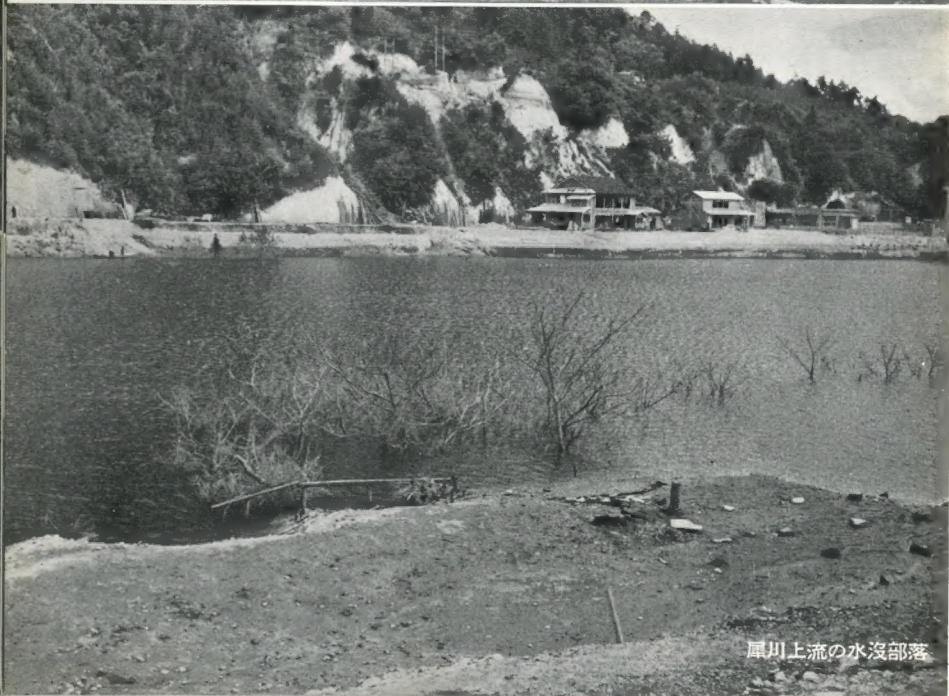
千曲川

川

「信州は山のあいさばいかの国だけえど、よその県から流れこむ川は一本だってねえら」。信濃の川は信濃の山の水を流し、他国の水をうけない。千曲川、犀川、天竜川、木曾川、姫川等の川筋が信濃の水を日本海と太平洋とにふりわけている。千曲川は犀川の水を長野市東郊で合流し、県境を出てから信濃川とよばれて流れる。地勢は急峻であり、河川の流域も広いから、川の多くは急流で、落差もあり、水量もあって、水力発電に適している。しかし一方、山岳にV字型渓谷を深く刻みつつ、絶えず土砂を流して河床を高め、いわゆる天井川となって降雨の度に一時に増水し、堤防を決壊する荒れ川でもある。キティ颱風では千曲川、犀川、その他の本支流で八十億の水害を見せたというし、年々の洪水の損害は日本でも最高に近い。もしこれらの大河の支流ごとに砂防工事を行い、ダムを築き、水量の調節を計り、発電所を設けるならば、災害防止と産業開発が同時に行われよう。範はかのTVA（アメリカのテネシー河谷開発公社）にある。長野県の渓谷洪水の状況は、テネシー河域の小型模型だともいう。昭和二十四年に発足した「信州河川綜合開発委員会」が今後強力な実績をあげてゆくならば、信州の川からは無限の富を汲みあげることができるはずである。現在、六河川の本支流には、合せて一四四箇所の発電所が設けられ、発電量一二三万五千キロ、全国総発電量の約一九％に当っている。県内消費は僅か一六％、大部分は京浜、阪神へ送られる。

犀　川

木曾川

天竜川

犀川のダム

犀川上流の水没部落

電　源　開　発

県の発電力は全国の約19%を占めている．発電所数は百馬力以上 137，百馬力以下80，合計217箇所，発電量は約百万キロワットに及んでいる．さらに工事中または計画中のもの百余，80万キロワットがあり，木曾川支流王滝川の滝越発電所三浦ダムは，諏訪湖の水量に近く，天竜川の満島発電所は82000キロという大発電所である．綜合開発が実施されるにつれ，多くの社会問題が発生した電源開発は，外資導入により日本を植民地化するという反対も起った．ダム建設のため水没する部落は，必死の反対陳情をくりかえした．村民は'よりよき環境の創造'を目指し，他地方へ入植しなければならない．次,三男対策として県綜合開発技術学園が設立された．これはかつての開発青年隊だ．逆コースだという反対もある．

木曾川，寝覚の発電所

千曲川，小諸のダム

青木湖(上)と中綱湖(下). 更に下の木崎湖とともに仁科三湖という.

スケート

湖

日本アルプスといっても、その景観は本場のアルプスとかなり違う。本場には氷河が現存するし、多くの氷河地型を残している。日本アルプスの二八〇〇米以上の高山には、氷蝕圏谷(カール)が見られるというが、著しいものではないし、アイス地方のように多くの氷河成湖水も見られない。カナダのロッキー山脈にある幾百の湖がたいてい氷河と関連があるのに比べて、日本アルプスの湖の成因は異っている。最大の諏訪湖(海抜七五九米)は、東西両側に走る断層崖の間にたまったもので、元来は長方形であった。しかし今では南北に川の運んだ沖積物がたまって、東西に長い楕円形となっている。白馬山脈の東の構造谷に連珠状に並ぶ仁科三湖(海抜八二二米)は安曇三湖ともよばれ、同じく断層湖であるという。一方、妙高の裾野に連なる野尻湖はいわば火山性で、西方の斑尾山の火山噴出物が池尻川をせき止めて作ったものである。上高地の大正池も焼岳噴火(大正四年)の泥流が梓川をせき止めて作った。名残の枯木が湖中に林のように立っている。

志賀高原の涸沼

丸池(志賀高原)

野尻湖

諏訪湖

念仏池(戸隠山麓)

信州の湖

犀川の支流高瀬川に合する農具川が連珠状につなげる仁科三湖．中綱湖，木崎湖は冬のスケート場だが，青木湖だけは結氷しない．昔木崎湖畔に城があった．敵に追われ湖に逃げた城主のあとを愛玩の犬と鶏が追い，その波紋と羽音で敵に知られ殺された．今でも附近の部落では，犬と鶏は飼わず，湖畔の神社には鳥居もない．志賀高原には丸池をはじめとする志賀四十八池がある．戸隠の念仏池湖岸に立てば，池の底からもくもくと湧水がわき出る．野尻湖の平均深度は21米，最深部は39米，その名は沼尻(ぬじり)の転化という．諏訪湖は湖水面積にくらべ，受水面積の広いこと日本一で湖面の37倍(琵琶湖5.4倍)．釜口の排水口から天竜川が流れ出る．七不思議の一つ「御神渡(おみわたり)」は氷結した湖面の亀裂がもり上り，数粁に達する．諏訪明神が下諏訪の女神にかよう道だという．

平（たいら）と峠

交錯する大山脈の中に、信州の文化を育んできた盆地や平が見える。フォッサマグナの内側には、日本最高の平野、諏訪盆地（平均海抜七五〇米）がひろがり、塩尻峠を越えたその北に、松本平（平均海抜六〇〇米）がこれに次ぐ広さを横たえる。諏訪盆地は中央に諏訪湖をたたえ、湖岸デルタを大きく展開した肥沃の地、そこに営まれた集落の歴史は、遠く先史時代にさかのぼる。松本平は、四周の山地を浸蝕した梓川、鳥川、乳川、高瀬川等の急流が、大小の扇状地の砂礫を山麓に吐き出している。伊那谷（平均海抜五〇〇米）はフォッサマグナには属さないが、松本平に似た性質で、天竜川の貫流する両岸には、雛段のような河岸段丘が見える。フォッサマグナの東側には、佐久平、善光寺平。千曲川のうるおす所で川に沿うて狭く長い沖積地がある。しかし善光寺平の大半は、犀川の扇状地で占められ、佐久平は北東部山岳の扇状地にひろく取りまかれている。その他安曇（あずみ）平、上田盆地、飯山盆地、木曾谷等、

善光寺平

各地方の都市も、県面積の一一%を占める耕地も、すべてこれらの盆地や平に集中している。しかし、多くの盆地は疎礫の多い扇状地であり、裾野であり、川の水は深い伏流となってしまう。松本平南部の梓川、奈良井川は水量多く伏流とはならないが、河床は扇状地より二、三〇米低い。したがって農業用水どころか、飲料水さえ得にくいところがあり、昔から耕地の多くは桑畑にあてられ、それが最近では林檎畑に変っている。盆地と盆地とは山でへだてられ、急峻な街道で結ばれた。昔、

信濃の国から他国へ出る道は、六つの河谷を経る以外は、すべて街道筋の峠を越すほかはなかったし、盆地と盆地との交通も峠越えによって往来した。信濃国にある峠の数は四九一を数え、全国総峠数の五％を占めているという。

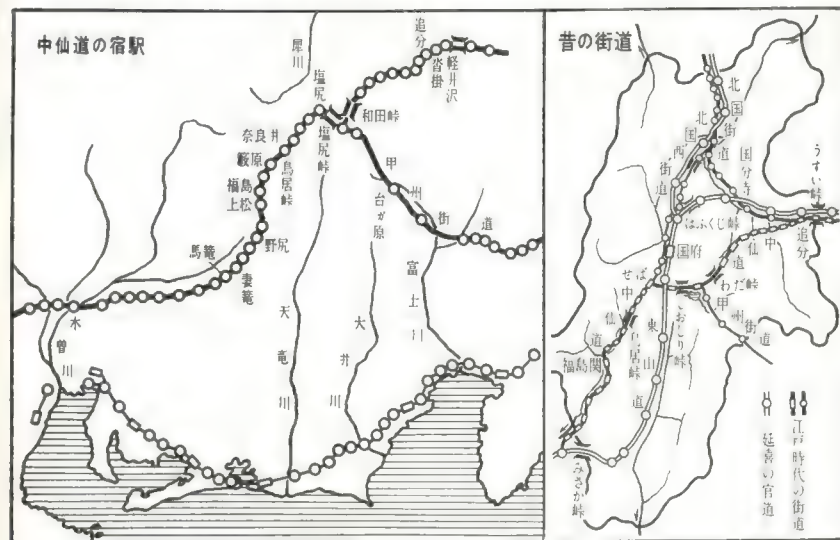
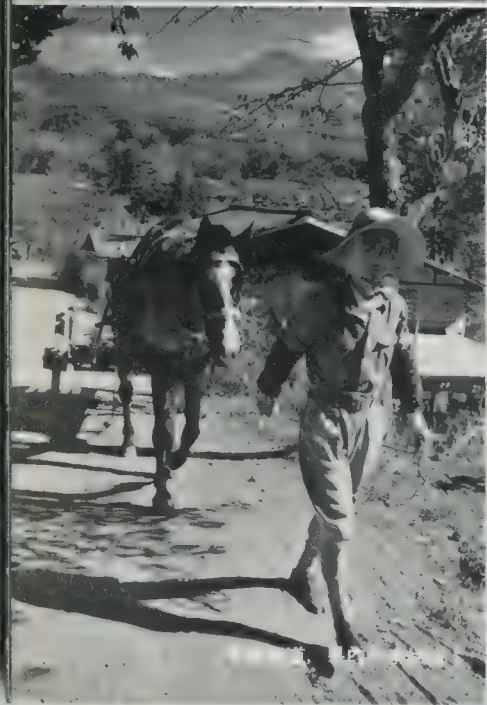
「木曽路はすべて山の中である。あるところは岨づたひに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曽川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入口である。一部の街道はこの深い森林地帯を貫いてゐた」（島崎藤村「夜明け前」より）。山里へは春のくることもおそい。そして険峻な長野県は、今でも鉄道の密度は極めて小さく、バス、トラック、リヤカー、自転車、馬力、橇などが人々の大切な足となっている。それで、昔ながらの街道もたいした変貌を見せずに今日もなお生きている。現在、県下を走る一級国道は第十八号線（高崎―直江津）、第十九号線（名古屋―長野）、第二十号線（東京―塩尻）、二級国道は長野小千谷線、長野原上田線、松本上田線、福井松本線、大町糸魚川線、大町松本線、名古屋塩尻線など十一線であるが、こ

れらの国道は昔の街道を利用して通っている。中仙道六十九次はかつて東海道五十三次に対して脇街道の役を果したが、今でも東京―大阪向けの早出野菜、果物、薪炭がこの街道を動いてゆく。秋リンゴの盛りには、かつての難所碓氷峠を一日数百台にのぼる出荷トラックが、東京をめざして走っていく。

信濃国の街道には，碓氷峠から諏訪湖の北を過ぎ，木曽の大渓谷を経て美濃に通じる中仙道．中仙道の追分から北折して，上田，屋代（やしろ），長野等を経て越後に至る北国街道．中仙道の洗馬（せば）より松本，麻績（おみ），稲荷山を経て篠ノ井に続く善光寺路．上田より松本に至る保福寺（ほうふくじ）越えの脇往還，伊那より高遠，四日市場，御堂垣外，金沢等を経て甲斐に通じる伊那街道．飯田市から駒場（こまんば），波合，根羽を経て三河に至る新城街道．飯田市から遠江に至る青崩越え等があった．

鳥居峠より藪原を見る

昔の宿場（広丘村郷原）

木曽街道奈良井

糸魚川街道，北塩の通った道

往　　還

いまでは殆んどバスが開通し延長2630粁に及ぶという街道に，1里毎に塚を築き，榎を植えて里程を知るたよりとした昔，往還は道中記を懐に宿場から宿場へとわたる旅人でにぎわった．宿場には宿屋があり，駕籠や馬を用だてる問屋があった．参覲交代の諸大名や，日光への例幣使などには特別の宿舎があり，本陣と呼んだ．糸魚川街道には，中馬（ちゅうま）とよぶ運搬馬が，糸魚川の塩を運んできた．この塩を北塩と呼び，表日本の塩を南塩と呼んだ．街道の分れ道は追分といった．中仙道は中山道ともいい，東の桜沢から西の十曲峠まで十一宿を，木曾街道と称した．通行が多いと，木曾谷の米では間にあわない．「権兵衛街道の方には，馬の振る鈴音に調子を合せるやうな馬子唄が起って，米をつけた馬引の群がこの木曾街道に続くのも，さういふ時だ」（藤村）．

飛騨街道小木曾附近

北国街道，新潟県境近く

尖石古墳，聚落地の復元

歴史

信濃国には先史時代から多くの土着日本人が住んでいた。東日本を中心に発達した縄文式文化時代の遺跡は全県にわたってみられ、尖石遺跡(諏訪郡)はここに相当の集落のあったことを示している。尖石よりやや後に発達した竪穴敷石住居址を成立遺跡(小県郡)が見せる。縄文式文化の終期に西日本に起った弥生式文化も東漸し、各地の平野にその住居跡を残している。平出遺跡(東筑摩郡)は、縄文文化時代より古墳時代に至る長い間、広大な地域に存続した古代の集落の跡である。三、四世紀頃、大和に国を作った大和朝廷は、五、六世紀頃ともなると強大な勢力となり、やがて日本を統一するに至るのだが、その統一が進むにつれて、大和文化は西から信濃にまで及んできた。古事記国譲りの記事の中に「科野」とあるのは、この国の名であった。当時の古墳で現存するもの二千六百、円

発掘の端緒となった石

尖石(とがりいし)の遺跡

八ヶ岳西麓，海抜1000米の丘陵，その南斜面中段に古くから尖石と呼ばれる三角錐状の巨石があり，その頭部に研磨の痕跡が認められた．明治27年ごろ，附近から石器時代の遺物が出土し，尖石は当時の集落の共同砥石と認定された．昭和に入ってから発掘が積極的に進められ，丘陵一帯からは石鏃，石斧，石錘，石匙，石皿，縄文土器，土偶，滑車型耳飾りなどが掘り出され，30余基の住居跡も発見され，昭和27年に特別史跡に指定された．住居跡の多くは径4～6米の円形または隅丸の方形をなし，表土下，ほぼ1米の所に床があり，床の中央には，扁平な石を組み合わせた方形，又は円形の炉の址がみられ，周囲には柱の址が認められた．先住民族はこの竪穴を基にして上家を架した住居をかまえ，高原一帯に集団的な生活を営んでいたものと思われる．

復元後の尖石遺跡

復元聚落の一部

平出の遺跡

平出遺跡内部，貯蔵用大穴

墳が最も多く、前方後円墳や積石塚なども見られる。古墳出土の遺物では石川将軍塚から、前漢代の鏡鑑、および漢式鏡二七面、銅鏃一七本、筒型銅器などを出し、竜丘村御猿堂の古墳からは、銅製画文帯四仏四獣鏡を出土している。また、伊那からは錫鏡の出土の多いことがめだち、畔地古墳からは全国的にもめずらしいという鎖付心葉形耳飾が発見されている。これは、南朝鮮方面から出土したものと同種類である。奈良朝のはじめになると、信濃国司が任ぜられ、和銅年間には、信濃と美濃との境に、吉蘇路（木曾路）がひらかれた。万葉集の「信濃路」は東歌の中で年代の推定できる最古のもので、和銅二（七〇九）年、吉蘇路開通直後のものという。

平出の遺跡（部分）

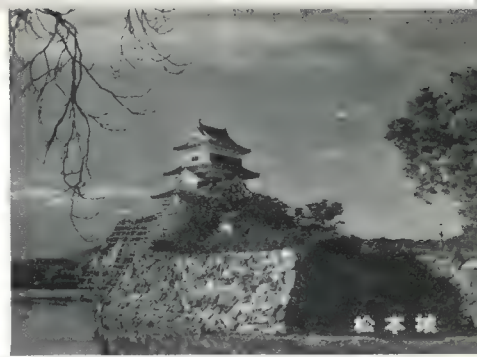
戌立の遺跡

科野の国名は信濃と改められた。養老元年、調として初めて絁をおさめた。その後間もなく、国府を上田附近から松本附近に移した。このころから善光寺と国分寺とが北信文化の中心をなすようになった。善光寺は、皇極天皇元年の創建である。国分寺は、天平十三年聖武天皇の御宇の造営で、信濃正税稲四万束を割いて国分寺造営に当てられた。この頃正倉院御物調布に、前科郷（北安曇）から収めたものが発見されてもいる。さらにくだって、延暦年間になると、大陸からの帰化人がしだいに多く住むようになり、信濃の産業はいちじるしく進歩した。両羽社のダッタン人木像は当時の帰化文化を示すものという。未開地の信濃も、平安時代には多くの路が拓かれ、中頃には十郡六十七郷が知られている。社寺も多く建立され、荘園も百三十余箇所を数え、そのうち、皇室領がもっとも多く、社寺領がこれに次いだ。また延喜式には武蔵、上野、甲斐、信濃の四国にわたって三二の官牧の名が出ているが、そのうち半数が信濃の国に設けられ、牧畜適性の土地柄は古くから知られていた。望月の牧跡、牧監庁跡は、当時の官牧の名ごりである。天仁年間、屢々浅間山の大噴火があったと史書に見られる。平安朝の末期に近づくと、荘園主の多くが保元、平治の乱にも加わり、やがて、地方武士なる信濃源氏がしだいに頭を出しはじめ、木曾源氏義仲が蹶起して征夷大将軍となったが、たちまち源頼朝のために近江粟津で討ち亡ぼされ、鎌倉時代となってから守護職は甲州源氏小笠原氏の手に帰した。

望月の牧跡

牧監庁跡

前方後円の古墳（伊那）

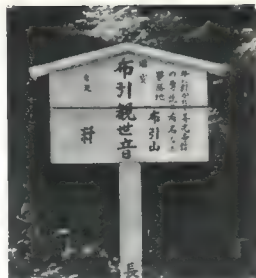
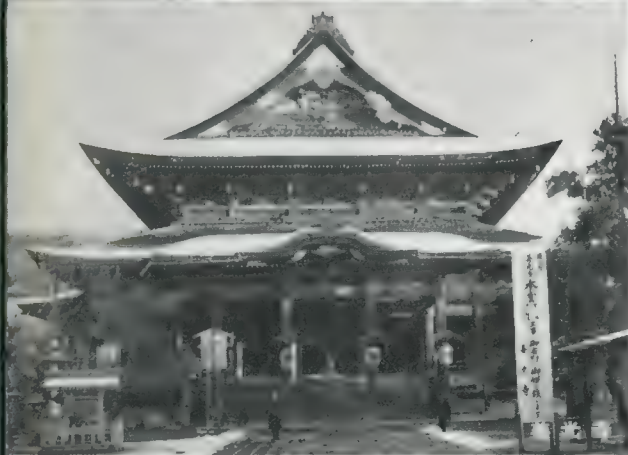
松本城

下って建武年間に入ると、信濃諸氏は足利方と北条方とに分れ各地に戦い、興国五年に南朝の宗良親王が大河原にかくれたが、国内の志士は親王を奉じて、三四年のあいだ北朝に対抗した。当時の遺跡は南信濃の各地にみられる。やがて政権は室町幕府にうつっていった。戦国時代になると、甲州の武田氏がさかんに信濃侵略を企てたが、村上、小笠原、諏訪、木曾の諸豪は連合してこれを防ぎつつ、越後の上杉謙信に救援を求めた。川中島決戦では甲州方討死四六三〇人、越後方討死が三四七〇人余と伝える。やがて武田氏は信長に亡され、信長また亡んだ後、天下をとった秀吉は、諸侯を各地に封じた。小諸には仙石秀久、飯田には京極高知、松代には森忠政、松本には石川数正であった。戦国時代の築城も山城、平山城、平城（館）と変遷していったが、中期以降は三層より四層、四層より五層へと、四周に威厳を示した。桃山期の名城、松本城は文祿三年石川光長の築城であり、現在日本に残る五層天主閣中最古のものとなった。上田城は、慶長五年に城主真田昌幸、幸村の父子が徳川秀忠の三万騎をよく防ぎ、関ヶ原に遅参させた。関ヶ原役後、家康に従って関東に上った信濃の諸将は概ね旧領に帰り、社会の秩序もようやく定まると、徳川氏の手で信濃に藩政がしかれ、松代、松本、上田、諏訪、高遠、小諸、飯田、飯山、須坂、岩村田などの、十藩に分けられたが、松代藩の十万石、松本藩の六万石を除くと、ほとんどが一万－三万石ぐらいの小藩の分立という有様であった。しかも

飯田城

小豪族割拠の信濃には、譜代、外様、直轄地、社寺領などを交錯させたので、土地関係はじつに複雑であった。これら小藩の治下に太平を謳歌すること二百六十余年、着々と信州の文化は進んでいった。新田の開発も進み、徳川初期文祿三年の検地では五四万八千石であったのが、幕末天保五年の検地になると七六万八千石に増加している。明治時代を迎えると、この地方には伊那、中野の二県がおかれ、県藩共治となったが、明治四年七月にいたり、廃藩置県断行となり、信濃の国は改めて筑摩、長野の二県に両分された。筑摩県は信濃の南部四郡（現在の諏訪、上下伊那、東西筑摩、南北安曇）と飛騨とを、長野県は北部六郡（現在の南北佐久、小県、更級、埴科、上下高井、上下水内）を管轄したのであったが、明治九年八月、全国的に県の廃合が実施されたとき、筑摩県を長野県に合併し、信濃国一円を以て長野県と改めた。江戸時代だいたい七〇万台を上下していた長野県の人口は、明治二十三年には一〇〇万台を突破し、大正九年の第一回国勢調査では一五六万二千、昭和二十五年の国勢調査では二〇五万六千、女一〇〇人に対し男九四・五人となっている。

山本勘助の墓

川中島古戦場

高島城

信濃の古刹

信濃路を訪ねれば，安楽寺の八角三重塔，大法寺の三重塔(見返り塔)，国分寺の三重塔婆も美しい．諏訪神社は全国に分社 4800 余社，攝社末社を合わせると実に七千数百社．祭神の建御名方命(たけみなかたのみこと)は大国主命の子，国譲り後，洲羽(すわ)の地を開いた．しかし信濃といえば善光寺，善光寺といえば信濃，長野市を「線香の烟の中」から生んだ善光寺は，天台宗の大勧進と浄土宗の大本願との二頭宗派の上にのった古刹．本尊は天竺，百済，日本へと三国伝来の一光三尊阿弥陀如来．「人もし生をうけて善光寺に詣でざれば，弥陀の浄土に至ってその光明に浴するを得ず」といわれ，布引山（布引観音）の麓に住んでいた無信心な老婆が，「牛に引かれて善光寺詣り」した昔から，今では39を数える宿坊の坊さんが「善光寺は一度は来ても二度来ない」ほど客引に熱心である．

柏原村　一茶誕生　終焉の地

一　茶　の　村

「我里はどぅ霞んでもいびつなり」. 北国街道の野尻湖の近くに柏原村がある. 黒姫, 飯綱の二山を近くに仰ぐこの村に, 俳人小林一茶が生まれた.「われと来て遊べや親のない雀」. 継子の一茶は14歳で江戸に上り俳人となって諸国を流浪した. 夏目成美を訪ねたとき風采が悪いので門人が内に入れてくれぬ. 一茶は笑いながら土産のソバを玄関におき「信濃では月と仏とおらがそば」と詠んだ. 50歳近くになって故里に帰ったが, 父の遺産をめぐって継母や異母弟と争ったあげく, ようやく折半して得た安住の家も, やがて「焼け土の, ほかりほかりや蚤さわぐ」と, 火災で焼け落ち, 残った土蔵のなかで65年の一生を終えた.「これがまあ, ついの栖(すみか)か雪五尺」. 文政11年, 辞世に「盥から盥に移るちんぷんかん」,「入らば今日, 草葉の陰ぞ花に花」.

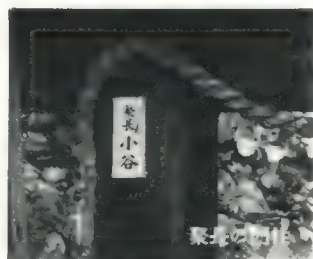
一茶終焉の土蔵の入口

一茶を記念する俳諧堂

戸　隠　山

戸隠ソバ

信越国境近く，凝灰質集塊岩の奇観を呈して聳える戸隠山(1911)には，昔戸隠大権現を祭る三大寺があり，寺領千石を領していた．比叡山と対称し，修験者の道場として，役(えん)ノ行者もこの山に九頭竜(くずりゅう)を封じたという．僧坊とて古来妻帯制をとり，神仏混淆ともいうべきだったが，明治維新に神仏混淆は禁じられた．そこでいくたの仏像，仏具，石塔をこぼち，神社に転向，三院を三社とし改めて戸隠神社と呼んだ．祭神を天手力雄命(あめのたぢからおのみこと)とする．

聚長の門札

謡曲「紅葉狩」で平維茂将軍に誅せられた鬼女紅葉の棲家，霧とソバと小鳥の放送で有名な戸隠．その町並は神官の家がほとんど大部分を占めている風変わりなところで，中社(祭神は天意思兼命)の門前には神主の家が宿屋を兼ねて39軒ある．宝光社(祭神は天表春命)附近にも門前町があったが，火事で失われた．ここは昔聚長制がしかれた所で，今でも門札にその名残がある．「眠たげな閑古鳥……白樺の木を燃やして，母屋でソバ汁を作っているなど，町の宿屋では見られない懐しさです」(林芙美子)．

長国寺霊域全景

小学校教室

象山記念碑（有楽町）

松　代　の　町

松代は今でこそ人口１万の小都会だが，かつては信濃第一の大藩真田十万石の城下町で殷賑を極めた．永禄３年，山本勘助が構築した海津城は日本七城の一といわれ，甲軍の要衝であった．徳川時代に入り，元和８年真田信幸が上田から移封され，十余世を以て維新に至った．その間，藩学の中心地として，松代藩文武学校が設けられ，今日そのまま小学校に使用されている．幕末，藩主幸貫は佐久間象山を抜擢し，兵制を洋式に改め，銃砲隊を組織し，松代は蘭学の中心地となった．象山は名を啓，長じて修理と呼び，尊王開国論を以て天保10年，海防八策を上書した．元治元年，水戸藩士攘夷の勅を請うと聞き，単身素志を陳ぶべく山階宮邸におもむく途中刺客の凶刃に倒れた．松代はこれらの歴史を今に残して，侍屋敷の長土塀のかげに，城下町の空気をただよわせている．

藩主別邸

電信塔の上

日本電信發祥の地

松代は蘭学者佐久間象山の影響によって，泰西文化を紹介される機会が多かった．例えば松代藩は種痘を試みたこともあり，また象山はこの町で日本で初めての電信の実験を行ったともいう．日本最初の電信線は，明治11年5月由緒ある長野県を縦断して東京・新潟間に架設され，上田，長野に分局が設けられた．続いて13年には松本，松代，福島，小諸，15年に稲荷山，18年に伊那，19年に飯田の順で電信局が設けられた．なお電話の開通は電信より遅れて，明治39年12月の長野を皮切りに41年は松本と上田，40年の加入者はわずか559名だったが，45年には3707名，大正14年には11567名と次第に普及していった．郵便のほうは明治5年7月に松本，塩尻，大町，同年10月に長野，6年に中野と須坂に書状集函，切手売捌所が設けられたのを嚆矢とする．

日本最初の電信塔跡

日本電信発祥の地

地下大本営

松代大本営

松代町から山裾へ一里ほど，西条村という農村に，土地でムダアナといっている洞窟がある．戦争も終局に近いころ，本土決戦に備えて大本営がここに疎開するはずだった．穴は迷路のように掘られ，入口数十間はベトンを固め，御座所に続いて参謀室が十余り，ドアもはめ板も檜一枚板で，大本営から半町ほどはなれて檜造りの学習院もあった．藁葺きの農家は緋毛氈を敷き，シャンデリアを吊して将校宿舎となった．完成したころに戦争が終った．村民は穴の見物に出かけ，いまでも末代の宝だと人に見せる菊紋章入りの硯箱などをお土産に持って帰った．学習院に東京上野の戦災孤児を収容した和尚様（おっしゃん）がいた．中央気象台が，穴の奥に地震計を備えて研究をはじめた．長野市平和博の時にバス会社が大本営見物をあてこんだがあまり客がこなかった．

松代大本営地下入口

松代大本営

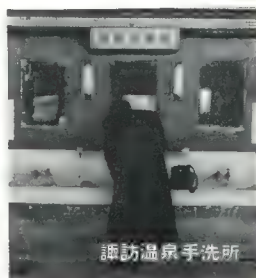
大本営古殿跡

松本市街

伊那市街

松本自衛隊

長　野　と　松　本

昔信濃国府があり，明治初年に高山県県庁があった松本市は，とかく長野市とはりあっている．明治20年には長野県を昔通り筑摩・長野二県に分けろ，でなければ松本に県庁を移せと流血の惨事がおきた．明治40年には聯隊設置をめぐり，長野，松本の争奪戦となり，結局，松本に落着いた．大正５年は県立工業学校の争奪戦，これは長野．大正７年は宿望の高等学校の争奪戦，これは松本．数年前も移庁でもめたが松本に「県的会議所」をおくことにして，なんとかけりがついた．

諏訪温泉手洗所

中野の県庁跡

南　信　と　北　信

南北に長い長野県は，北信と南信とで性格の違いが感じられる．北信は一般に東京の経済的影響を受け，南信は大阪や名古屋の影響を受けている．北信は，いわば関東的に地味好みであり，南信は関西的に派手好きである．北信の中心長野市は善光寺の門前町，今日では県庁所在地として政治の中心．南信の中心松本市は松本城の城下町．今日では文化，経済の中心と自任している．南信の飯田市は，豊橋に通ずる三州街道と，中仙道に通ずる大平街道とが名古屋色を流しこんでいる．

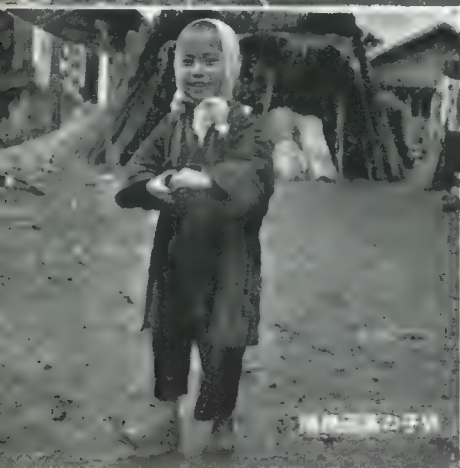
上山田温泉

長野善光寺門前町

小諸市商店街

ささをとる

炭はこび

炭焼きの女

簀を作る男

山に残る原始生活

深い山間，とくに赤石山脈の中には，小さな集落が忘れ去られたように，炭焼き，竹取り，木の実拾いなどを生業としながら，家といっても周囲にコモを下げて風を防ぎ床に蓆を編んで敷き，まるで「信濃奇勝録」で読んだ秋山部落のような生活を営んでいる．「箕作より九里余り東山中に入て秋山といふ地あり，此所はいにしへ平家の落人隠れ住む所といふ……往古は五穀もなく只蒟蒻のみを作りて其根を食せしよし．今は山々の岨を火にて焼払ひ，粟稗蕎麦大豆等を作り又は栃の実を拾ひて食とす……素より衣類はおろといふ物にて造る．此物は山中に自然に生して苧の如し．是を刈て日に晒し，水につけて皮を剝，小束にして細に編，袖なき外套の如くになして表著とす．老若男女孺子まで，皆これを着る．名づけてバタといふ」（信濃奇勝録五）．

岩音山腹の炭焼小屋

岩音山腹の炭焼小屋

岩音山腹の炭焼小屋

初等教育にはすぐれた伝統がある

教育国

長野県はよく教育県だとか、文化県だとかいわれる。すでに旧藩時代から、寺小屋の普及は日本一だったというし、明治八年には児童の就学率が六三・二四%、明治三十四年には九四・七%で、ともに全国第一位を示した。明治十八年に入ると、いまでも善光寺とともに「信州の二大怪物」といわれる信濃教育会が創設されて、機関紙「信濃教育」を発刊している。信州人はもともとよく読み書きし、理屈っぽく、的という字を言葉の尻につけるのが好きだといわれている。新聞の投書欄の常連が多いともいう。長野では、「文芸春秋」や「世界」や「岩波文庫」などが、東京に次いでよく売れるという。小藩分立時代の小士族が中心となった政治議論好きの伝統もある。また、短い農作期間に峻嶮な高地と闘わなければならぬことが、農業知識の欲求を刺戟し、過去数十年間、蚕で生計をたてるためには、外国の生糸相場に関心を持たざるを得ず、無知蒙昧な農民ではすまされなかった事情もある。それだけに信州気風は理知的になり、理知的なればこそ教育国の名を謳われるに至ったのであろう。そして養蚕景気のころは、現金収入もあったので、さかんに学校が作られもした。しかし、生糸がナイロンに海外市場で敗北した現在では、教育費が県予算に占める率は、全国で八番目に下り、新制大学も全国二二六校中の一校、短期大学は二二八校中の二校で、その設備もB級を出ず、高等な教育機関がある教育県とはいえないかもしれないが、小学校や中学校は、人口に比較して数も多いし、設備もよくととのっている。西田哲学を愛し、アララギ短歌を好む教育国信州の気質は、一面では強情であり、融和性に乏しいともけなされる。しかしこれは幕府がかつてこの国一つに、譜代、直轄地、寺社領、他国藩領を交錯配置し、住民同志があい反目しあうように企てたせいでもあろうが、それだけに信州の農村にはいまだに封建的な残滓が根強く残っているようであり、教育国の名と矛盾しているように見える。嫁の地位は少しも向上しない。姑のもとに慴伏し、現金に手をふれることも、家政の改良に手を出すことも自由でないのが多いという。婦人協同組合の出現は、こうした農村婦人にとって、会合に出る時間だけで

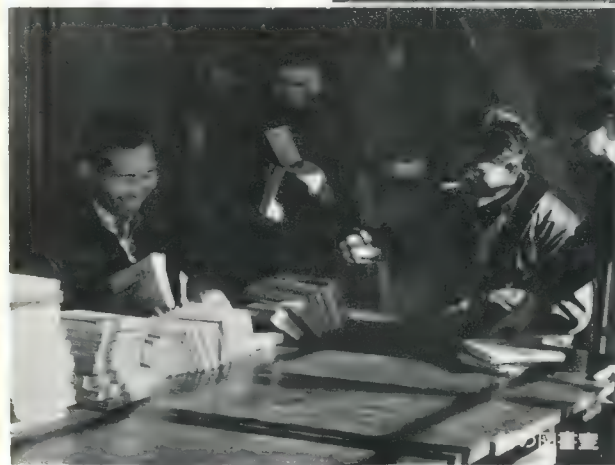
荒蕪地は青年の研究心を喚起した

[illegible]に見る筆塚は寺小屋の名残り

の集い

年男女は新聞を討論の材料とする

も、家の桎梏からの解放になっている。青年たちは戦後いよいよ前進的になってきているというが、家長なり、部落長なり、もっとも身近なものに対する改革の発言をさけて、講習会、討論会など、身辺からむしろ遊離した問題に議論をたたかわす傾向がみうけられる。国家社会を論ずるのが信州人の気風で

婦人協同組合は婦人の解放をはかる

あるかもしれないが、理屈は多いがズクナシで実行がちっともともなわぬ。「こたつ文化」といわれる所以でもある。つまり、長い冬のあいだ、コタツの中で、消費量全国一というお茶をガブガブのみながら、口ばかりで尻が重いというわけである。社会を論じる精力を、むしろ身近かな生活の改良へまず投ずべきだ、というのが、今日長野県の新しい指導勢力となってきた「農村文化協会」などの指導方針と聞く。ともあれ、現在なお、農村の主導権をにぎっている老壮年層が、ひとたびは、信州教育の洗礼に浴してきた人たちだけに、青年たちの革新運動はかえってむずかしいのかもしれない。

青年会は講師を招いて講習会を開く

養蚕

伊那節に「蚕こわがる子は生まぬ」と歌っている。長いあいだ、蚕糸業は長野県産業の大宗であった。明治以降、絶えず日本の輸出品の頂点を占めていた生糸の需要が増すにつれて、県下の養蚕農家は年を追い急カーブをえがいて増加していった。桑園の総面積は、明治十七年ごろの約一万町歩が、最盛期の昭和六—十年にはじつに七万八千町歩に達した。その当時は、県下の全耕地面積の四七%までが桑畑であり、とくにさかんだった飯田盆地の中心部では、水田三〇%、畠一〇%に対して、桑園六〇%という割合にのぼった。養蚕農家は全体の八〇%で、一戸当り五反歩の桑園を持ち、年産繭量は八〇—一三〇貫に達し、年四、五回も飼育した。大規模な養蚕農家は宏壮な建物を構え、年に一千貫近くを収繭し、家族だけでは不足するので、雇人を十人近くも使っていた。もちろん良田も桑園化して米は不足するから、他郡から買い入れ、自家用の野菜はわずか桑園の間作にするだけで、養蚕小作さえ行われた。養蚕は製糸工場を生み、県下各郡、各都市、各村落に工場の煙が盛に流れ、その下で多数の女工が生糸をつむいでいた。女工の多くは二十歳前後の未婚者であった。市場好況の時には

厳寒に一八時間も働き、休み時間もなく、食事は五分を過ぐべからずと規定した工場もあった。一方、百姓が工場の組合長、工場長にすわり、女工はその村からという自給自足の形もあった。明治末期まで米麦以外は、藍、綿、菜種、煙草等の作物によっていた長野の農家は、昭和初頭、生糸恐慌に見舞われながらも、ともかく蚕で生活水準を向上させた。しかし、この洪水のような養蚕景気は、戦時中、昭和十五年ごろから水の引くように減じた。終戦とともに、生糸輸出の再開が期待されたが、化学繊維の発達が海外市場における生糸の需要を皆無にしてしまった。最近、内需の異常な増加により再び生色をとりもどしたが、かつての好況は望むべくもない。村々の製糸工場は、戦争中の疎開工場になるか荒廃してしまった。今日、県下の桑園は二万六千町歩で最盛期の三分の一、明治三十五年頃に等しく、収繭量は四三〇万貫、依然日本一だが一戸当りの平均三〇貫、最盛期の四分の一に過ぎない。

県下に多い小製糸工場（岡谷附近）

荒廃した製糸工場（諏訪

製糸工場

繭袋

組　合　養　蚕

伊那谷では昭和13年ごろから，蚕糸の共同組合連合会というものを始めて，上伊那では竜水社，下伊那では天竜社と名付けた．これは各村の養蚕組合から，製糸のために一時繭をあずかる組合で，それぞれかなりの規模の製糸工場を持っている．それまで養蚕農家は営業製糸業者にただ繭を売るだけで，いわば旨い汁を人に吸われる心配が多かった．その弊を改めるために新しい組合製糸は，製糸を引受けると同時に，その販売面も依嘱された．竜水社なり天竜社なりが繭を糸にして売却すると，その売価から実際の工賃その他を差引いて，残った利益を養蚕農家に配分することにした．しかしこのように理想的な形の組合工場も，見る人には女工の労働が厳しすぎると写るかもしれない．生産のプロセス自体に問題が残されているのではなかろうか．

繭

マユ撰別

諏訪盆地の水田

森林と畠

長野県の七〇%余りの地域は森林でおおわれ、蓄積は約三億石、木材の年産三百万石、木炭は千四百万貫、薪材が千九百万束という。しかし耕地の割は、全国平均の一五・八%に比べて、わずか一二%にすぎず、盆地や谷底の平地はあますところなく耕やされ、なお姥捨山の「田毎の月」といわれる階段状の水田が、山腹や高原の斜面を耕して山頂に至っている。水田面積の七万一千町歩に対して畑は八万六千町歩という山国、農民は総人口二百万人中の一二七万人で、六〇%を越している。従って農家の一戸当りの耕地面積は平均約七反、五反百姓といわれる五反以下の農家が、約一二万戸の農家中、四〇%近くも占めている。全国平均の八反五畝に比べると実に小農の多い国である。米の全収量は平均年産一八〇万石から一九〇万石だから、二百万の県民に対して一人一日二合の配給なら自給できるが、三合配給にすれば約六〇万石の不足がでることになる。徳川中期、苛斂誅求に堪えかねた農民が幾度か蜂起した土地柄である。それだけに養蚕は信州にとってかけがえのないものであった。生糸が輸出不振といっても、普通畑への転換は容易でない疎礫の地である。

米・麦など

水田は盆地を中心に耕して山頂に至る．諏訪盆地では約1000米，千曲川上流の川上村，木曾川上流の開田村では1200米附近まで水田がはいのぼっている．そんなに高くなると用水も「ぬるみ」を作って暖めたり，水深を浅くしたりして苦労が多い．水稲の反収は殆んど例年のように山梨県と共に全国の最上位を占める．裏作は，諏訪盆地ではあまり見られないが，上伊那，松本盆地はレンゲ，積雪の少ない善光寺平では裏作の麦が水田の80%で全国一となる．緑肥は松本で水田の50〜90%作付され，これも全国最高の割合．畠は桑と果樹．林檎は養蚕に代って有望な市場作物．青森県に次いで2000万貫といい善光寺平が中心．梨は伊那に多くクルミは産額日本一を誇り，有望な輸出品．種馬鈴薯も本県特産．上伊那ではレンゲを蜜源にして養蜂も盛ん．

種馬鈴薯畑（菅平）

クルミ林（和村）

ワサビ畑（穂高町）

信州味噌

たくあん漬（南佐久）

ホップ畑（小布施町）

信州の名産

近代的な清浄野菜が諏訪地方で栽培されている．肥料は勿論化学肥料だけ．特殊な技術がいるが，単位面積当りの収益が多く，その栽培家は一般農家よりハイカラな家に住める．作物はセロリが圧倒的に多い．浅間，菅平ではキャベツを抑制栽培して端境期に出荷している．御牧原の薬用人蔘と共に乾燥した涼しい気候を利用したもの．茅野名産寒天も同様で，原料は伊豆山のてんぐさ．凍豆腐，凍こんにゃくは，もとの食品より栄養価が高い．凍餅は冬の点心として信州人の郷愁ともいうべきもの．豊富に間作される大豆が原料の信州味噌は有名．たくわん漬は佐久地方が中心で，乾燥した気候で干大根をたやすく作れるところから出発した．その他，県内一円のホップは麦酒原料，国内需要の大半をまかない，雪融水を利用した穂高のわさびも結構．

清浄野菜の栽培家（茅野町玉川）

セロリー（茅野町玉川）

戸隠のカラ松人工林

名古屋をつくった木材

木曽の伐木は尾州藩徳川侯が直轄していた．40里もの間，他藩の領地を通過して運材することは，大藩のみのなしうるところであった．上松に伐木役所があり，材木奉行3人が駐在し，藩伐木の他に立木処分（地元民の自家処分），入会などもとりしまった．士分はこの他に吟味役，調役，夫々2人．現在の課長主任の仕事は7人の目付手代が行い，この主任官の下に手代，内詰手代，同心，山手代など今の雇，林業手に当るもの夫々10〜20人．労働者は庄屋（組頭）制度であり，庄屋と役人（おかみ）との間は旦那衆制度によって結ばれていた．事業所は4〜5箇所，多い時は20万石ぐらい伐採したらしい．尾州藩の林制は今日の木曽美林を残したと同時に，大藩にふさわしい大がかりな事業が二百数十年間の間に木材工業を発達させ，今日の名古屋の基礎を築いた．

木　曽　五　木

森林の三分の一は国有林で36万町歩，約2億石．とくに木曽の森林は，御岳山麓を中心としたかつての御料林の一つ．明治末年までは，いわゆる木曽式運材法で木曽川を川狩りしたもので，10〜15万石程度に過ぎなかったが，大正元年中央線が開通して，森林鉄道小川線，王滝線，野尻線などが竣工し，流送から陸送に切り替えられておいおいに発展した．現在，1町歩当り蓄積3000石というヒノキを初め，サワラ，コウヤマキ，ネズコ，アスナロは俗にいう木曽五木．さらに海抜1500米以上には木曽の新五木といわれるモミ，ツガ，トウヒ，チョウセンマツ，シラベが欝蒼と茂る．一方，民有林の樹種は，アカマツ，カラマツ，スギ，ヒノキ，モミ，ツガ等だが，戦時中，年々6000町歩に及ぶ乱伐がたたり荒廃してしまった．植林の成績はまだ思わしくない．

志賀高原の雑木

木曽の国有林

写真機用レンズ製造

工業

明治の産業革命以来、長野の工業は製糸工業一本でやってきた。製糸工業の中心地は岡谷、須坂にあったが、県下いたるところの町村でも、製糸工場を持たないところは山村を除くと殆んどないくらいであった。長野の製糸工業は日本一、すなわち世界一を誇示していた。このように一つの工業があまりに巨大に発達したため、他の工業の発達する余地はなかった。しかし信州味噌だけは年産二千数百万石、全国生産の二五%を占め、金額にして四十億円を突破し、県の重要な産業となっている。あとは豊富な木材を加工する木曽の木工業や、冬季の極寒を利用した寒天、凍豆腐などの食品工業を数えるにすぎない。製糸工業が、縮小した現在、これに代わるべき工業を育成することが、爛頭の急務である。工業は人口を支える力がいずれの産業より大きいのである。県内には電力はありあまるほどある。しかし、鉱産資源は種類の多い点では

レンズ・コーティング

硫黄の出荷(須坂市)

北海道につぐが、鉱脈はおおむね貧弱である。伊那のマンガン鉱山は年産七千トン、全国の四〇%で第一位といい、米子の硫黄も多少活潑に生産しているが、百人以上の労務者を擁するものはそれぞれ一鉱山を出ない。その他は、年間五万トンの褐鉄鉱とか、亜炭を除けばまず皆無に近い。加えて海からは遠く、運輸を勾配の急な鉄道にたよらなければならない立地条件は、重工業の発展にまったく向いていない。重工業というべきものは、豊富な電力を利用した昭和電工の石灰窒素工場が唯一のものである。工業振興施策として立法化された長野県工場誘致条例も漸く軌道にのったところである。気候の乾燥した高原と、豊富な電力と、そして教育水準の高い地元労務者とによって成立する工業が、精密軽工業であることは、すでにスイスの範例がある。スイスは早くから農業依存を捨て、農民は全人口の二割にすぎず、食料の大半は輸入によってまかなっている。アルプス山腹でさかんに行われている牧畜も、国内需要すらみたさないのに、時計工業をはじめとする軽工業は、その大半を輸出し、観光事業関係の収入とともにスイス経済の支柱をなしているのである。たまたま戦争が長野県をスイス的に転換させる契機となった。空襲をのがれて京浜方面から、休閑製糸工場へ疎開してきた時計工場、光学工場などが、戦後も引続いて信州に根を下ろした。そして現在、長野の工業の首位は、機械器具工業の三二%となり、時計工場、写

顕微鏡工場(伊那市)

諏訪湖上の漁師

佐久鯉の飼育

明科マス飼育

諏訪の通り

水　　　　　産

海岸線のない山国のことだから，水産は貧弱．といってまったく漁村と縁がないわけではない．諏訪湖は最大の水産地で，鯉，鮒，ワカサギ，蜆などが，年産約1億円をあげている．だから諏訪湖周辺には漁村もあり，漁師の姿もみかけられる．そのほか，稲田養鯉として佐久鯉が有名．稲田の水を利用し，蚕蛹の蛹を飼料として，年産最高30万貫に達し，京浜地方にまで出荷したこともある．上高地にはイワナ，明科には水産指導所があり，犀川の水で虹マスの人工孵化をやっている．上田市には農林省の水産試験分場，下諏訪には温泉利用の水産指導所．しかし何といっても本県全部の漁獲高は需要の1割にも達せず，大部分は県外の海から送られてくる．今日では貨車，トラックによっているがかつては街道を峠越に運びいれた貴重品だった．

経木作り(木曽福島)

真機工場、顕微鏡工場、レンズ工場、オルゴール工場、ミシン針工場、通信機械工場などが、冬中コタツにあたってふやけてしまった手先きでは指先きから水蒸気が出て、日本のスイスとはなれぬという風評をよそに順調な発展を見せている。機械器具工業に次いでは製糸工業の一九%、木材工業の一九%となるが、注目すべきものに農村工業が挙げられる。精米、麦、農機具、製紙、製ペン、ジャム、肉・野菜類の罐詰、瓶詰、製麺などの農村工場の普及度は、かつて第一位にあった北海道をひきはなして、日本一となっている。これは、原料が地元にあること、労力が地元で得られること、燃料が手近かにあることなどの、全国的に共通する農村工業発達の原因のほかに、製糸工場の旧施設を利用できることが、ひじょうに大きくプラスしている。しかしまだ長野県の工業の将来性は未知数だ。県下の工業従事員は昭和二十六年現在約八万四千にすぎず、全国の一六位に当り、生産額は年四九六億円で二〇位、その全国比は僅か一・二%に過ぎない。

[illegible]工場(伊那市)

オルゴール工場(諏訪市)

農民美術(神川)

ミシン針工場(上田)

[illegible](木曽福島)

牧畜

平安の昔から世に知られていた信州の牧畜は、明治以後の養蚕の発達によって、水田が桑畑と化し、役畜の要求がなくなってしまった結果、一時は衰えた。牧畜農家自体も、歩のよい養蚕農家に転向するものが多かった。しかし、生糸市場を失い、養蚕農家が真剣に明日の生き方を考えている現在、牧畜は信州に一つの光明を与えている。東北地方の牧馬地帯と中国地方の牧牛地帯との中間にあって、高冷高燥の地は約八万町歩の牧野にめぐまれ、草質も良好である。農業経営に家畜をとりいれると、地力が培養され、農業生産力は増加し、同時に蛋白資源を生産して国民の食生活改善が期待できる。その主旨で建てられた長野県畜産振興計画は、乳牛で一二六%、役肉牛で一二〇%、豚で一五九%と、目標を上廻る成績を示した。現在、馬は約三万頭、とくに佐久馬、木曾馬は小格農馬として多くの産馬を移出している。役肉牛は約五万頭、戦時中不足した馬に代って導入され、いたる所で犢の生産が行われた。乳牛は約二万頭。山羊が約六万頭、これは農民が山羊乳によって過労を回復させることを知った結果である。綿羊は約六万頭、養蚕農家で蚕糞を飼料とし、逆に厩肥を桑園に施用している。

美ヶ原高原にて

綿羊(美ヶ原)

牧場，木曾馬

菅平牧場，根子岳と四阿山の裾野，1600町歩の草原は，明治17年に開牧され，毎年6月1日から10月末日まで牛，馬，山羊が開放飼育される．上田，長野，須坂の三市を円く結ぶ北信一帯から集められる牛馬は，最高1200頭くらいになるといい，田の代かきをすませ秋のとり入れまでの農閑期に，ここで自由に走りまわって健康になる．役畜としては古くから木曾馬の評判が高い．体格の小さい割に力が強く，粗食に耐え，性質はおとなしいから，女や子供でも荷付ができる．日本の零細農に便利な小格農馬で産駒の売行はよく，市場は活況をみせる．西築摩郡一円と下伊那郡南部に約4500頭が飼育され，毎年約1500頭生産される．その木曾福島の馬市は白河市(福島県)と大山市(鳥取県)とともに名高く，7月初旬の半夏市(御毛附)，9月中旬の中見市が賑う．

綿羊(開田村)

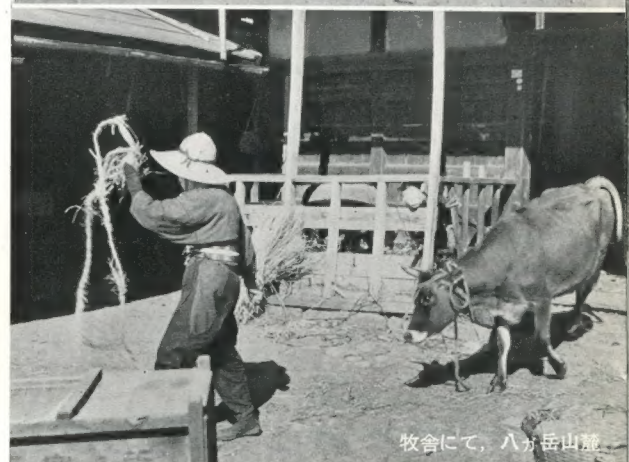
牛をひいて

水かけ牧草

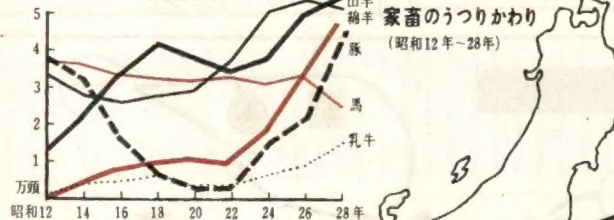
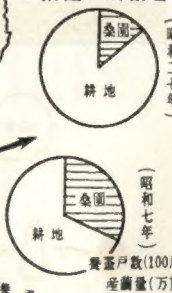
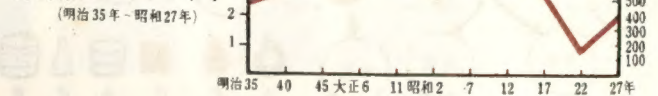
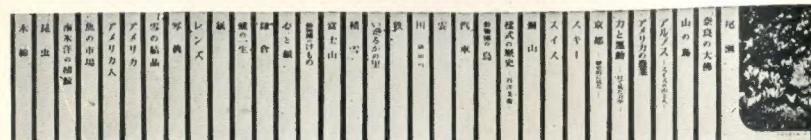
乳しぼり

集　約　酪　農

昭和27年，農林省は畜産振興十ヵ年計画をたて，乳牛100 万頭，役肉牛 300 万頭，馬 120 万頭などを目標とした．その一環として，長野県八ヶ岳山麓を岩手県岩手山山麓とともに集約酪農地区に指定した．これは指定の村落に各戸当り 1 頭以上の乳牛を導入して，酪農を組織化しようという狙いで，それ以来，八ヶ岳山麓には濠洲方面から乳牛が導入されて，目標 430 頭をめざしている．同時に，牧野の改良も手がけられてきた．山麓の本郷村附近では，牧草地に水路を設けて，寛政の昔から冬水を灌漑草地全面がうるおう程度にかけ流しているが，一般の草地が干草で反当り70貫程度の成績であるところを，反収 700 貫にまで増加させられるという．畜産振興計画はこうして米麦中心農業から有畜農業の方向へと，日本農政の一大転向を目指している．

集約酪農の村，八ヶ岳山麓

牧舎にて，八ヶ岳山麓

八ヶ岳の牧草

長野県の財政状態（昭和28年度）

歳入

交付金
税収入
国庫支出
県債
その他

地方財政　県財政

1000億　0　50億

歳出

社会及労働施設費
教育費
土木費
産業経済費
その他

地方財政　県財政

1000億　0　50億

耕地の作付割合

工芸作物
陸稲
果樹
じゃがいも
さつまいも
雑穀
そさい
豆
桑
麦
水稲
その他

農業のうつりかわり
（大正12年～昭和27年）

大正12　昭和7　12　17　22　27年

8
6
3
万町歩

米
麦
桑
そさい

家畜のうつりかわり
（昭和12年～28年）

5
4
3
2
1
万頭

昭和12　14　16　18　20　22　24　26　28年

役牛
山羊
緬羊
豚
馬
乳牛

桑園反別割合

桑園
耕地
（昭和二十七年）

桑園
耕地
（昭和七年）

養蚕業のうつりかわり
（明治35年～昭和27年）

養蚕戸数（100戸）
産繭量（万貫）

桑畑（万町歩）

7
6
5
4
3
2
1

1500
1000
500
400
300
200
100

養蚕戸数
桑畑
産繭

明治35　40　45　大正6　11　昭和2　7　12　17　22　27年

岩波写真文庫目録

1 木綿　2 昆虫　3 南氷洋の捕鯨　4 魚の市場　5 アメリカ人　6 アメリカ　7 雪の結晶　8 写真　9 レンズ　10 紙　11 蛾の一生　12 鎌倉　13 心と顔　14 動物園のけもの　15 富士山　16 積雪　17 いかるがの里　18 鉄　19 川　20 雲　21 汽車　22 動物園の鳥　23 様式の歴史　24 鉱山　25 スイス　26 スキー　27 京都　28 力と運動　29 アメリカの農業　30 アルプス　31 山の鳥　32 奈良の大仏　33 尾瀬

34 電話　35 野球の科学　36 星と宇宙　37 蚊の観察　38 長崎　39 高野山　40 正倉院（一）　41 彫刻　42 佛像　43 化学繊維　44 [illegible]虫　45 野の花　46 金印の出た土地　47 東京　48 馬　49 石炭　50 桂離宮と修学院　51 日光　52 醤油　53 文楽　54 水辺の鳥　55 米　56 正倉院（二）　57 石油　58 千代田城　59 歌舞伎　60 高山の花　61 波　62 京都御所と二條城　63 赤ちゃん　64 オーストラリア　65 ソヴェト連邦　66 能

新刊

158

ソ連・中国の旅

159

160

161

近刊

熊野路
鳥獣戯画
愛媛県
—新風土記—
せとものの町
—瀬戸—

B 6 判　64頁　写真平均 約200枚　定価 各 100円

北アルプス白馬岳麓にて

¥ 100